学校番号	327

令和８年度　数学科（国際文化科）

教科	数学科	科目	数学 A	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　新編「数学 A」　（数研出版）						
副教材等	改訂版　書き込み式シリーズ　【標準】　教科書傍用　Study-Up ノート　数学Ａ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と共同で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・教科書や問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。
・授業中のノート（プリント）は板書を書き写すだけでなく、授業のポイントや自身で気づいたことなどを記入していきましょう。

2　学習の到達目標

図形の性質、場合の数と確率について

【知識及び技能】

基本的な原理・法則を理解し、公式等を用いて適切に解答を導くことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

解答に至るまでの過程が論理的で、適切に数式等を用いて表現できる。
常に批判的に考察し、よりよい解法を目指して考察し、改善していくことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し、それらを活用する態度をもって問題に取り組める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象の数学の構造を見いだし、数理的に考察する力がついている。	数学のよさを認識し数学を活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　場合の数と確率	第１節　場合の数 1　集合の要素の個数 2　場合の数 3　順列 4　組合せ	a:和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 b:ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。場合の数、順列・組み合わせを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 c:表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。順列と組合せの違いに興味・関心を持つ。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	ノート(授業プリント) ワークプリント課題 振り返りシート 観察

		第2節　確率 5　事象と確率 6　確率の基本性質 7　独立な試行と確率 8　条件付け確率 9　期待値	a:確率の性質を理解し、さまざまな確率の求め方が分かる。また、求めることができる。　期待値の定義を理解し、求めることができる。 b:さまざまな試行の確率について考察することができる。結果が負荷時綱状況下において、どの選択肢が有理かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。 c:統計的な確率と数学的な確率の違いに興味・関心をもつ。さまざまな確率についての考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。			
2学期	第2章　図形の性質	第１節 1　三角形の辺の比 2　三角形の外心･内心･重心 3　チェバの定理･メネラウスの定理 4　円に内接する四角形 5　円と直線 6　2つの円	a:平面図形の性質や定理について理解し、定理を適切に利用し、線分の比や長さ、角度を求めることができる。 b:平面図形の性質や定理について、論理的に考察することができる。適切な補助線を引いて考察することができる。 c:平面図形の性質や定理について積極的に考察しようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	ノート (授業プリント) ワーク プリント課題 振り返りシート 観察
		第2節 8　直線と平面 9　空間図形と多面体	a:　空間における２直線の位置関係やなす角を理解している。正多面体の特徴を理解している。 b:　空間における直線と平面の関係を与えられた立体や条件から考察することができる。正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。 c:　空間における図形の位置関係について積極的に考えてみようとする。			
	第3章　数学と人間の活動	1　約数と倍数 2　素数と素因数分解 3　最大公約数･最小公倍数	a:　約数・倍数の意味を理解し、素因数分解を利用し、最大公約数･最小公倍数を求めることができる。 b:　倍数の判定法を考察することができる。身近な事象について数学的にとらえ、最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。 c:　身近な事象について、約数・倍数との関連を見つけて考察しようとする。			

3学期		4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式 7 記数法 8 座標の考え方 9 ゲーム・パズルの中の数学	a:整数を中心とした数学の内容、ゲームやパズルのルールを理解し、それらを活用することができる。 b:日常的な問題について、数学を用いて考察することができる。ゲームの設定やパズルの構造を考察することができる。 c: ゲームに勝つ方法やパズルの仕組みに興味・関心をもち、を論理的に考察しようとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	ノート（授業プリント） ワークプリント課題 振り返りシート 観察

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度